

非正規雇用職員セミナー

図書館で働く女性非正規雇用職員

2022年3月28日(月)13時30分～16時

日本図書館協会ZOOMによるオンライン開催



渡辺百合子(公務非正規女性全国ネットワーク代表)

1.公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)とは

- 2021年3月20日に開催した緊急集会「官製ワーキングプアの女性たち コロナ後のリアル」の開催準備に当たったメンバーが中心となり、同日、ホームページ開設とともに立ち上げたグループ。
- 集会には、多くの団体・個人からの賛同や、深刻な現状の訴えが届いた。また、手をつなぎ、声を上げていこうという熱い応援のメッセージも寄せられた。さらに、当初の予想を上回る賛同金が集まり、この先も、声を上げ続ける活動をやっていくようにという後押しを貰った。
- はむねっとは、女性を働き手として広がってきた公務非正規問題を解決していくため、公務領域で非正規で働く当事者、この問題に関心を寄せる個人と共に、問題解決に向けた調査、提言、活動を行っていくことを目指している。



2-1.はむねっとの活動

<https://nrwwu.com/>

◆2021年

4/30～6/4 公務非正規労働従事者への緊急アンケート実施

5/4 緊急要望書「非正規公務員の統計から性別集計の表示をなくさないでください」

を内閣人事局、総務省に提出(6/14電話回答)

5/15 語り場 (第1回) 7/4 (第2回) 12/18(第3回)開催

7/5 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート1次結果報告」記者会見

7/27 要望書「メンタルヘルス調査対象に非正規公務員を加えてください」を総務省に提出(9/2文書回答)

9/7～9/19 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート調査・追加インタビュー」実施

11/26 要望書「会計年度任用職員制度を見直してください」を内閣総理大臣、総務大臣、厚生労働大臣に提出(2022/1/21電話回答:厚生労働省、1/25文書回答:総務省)

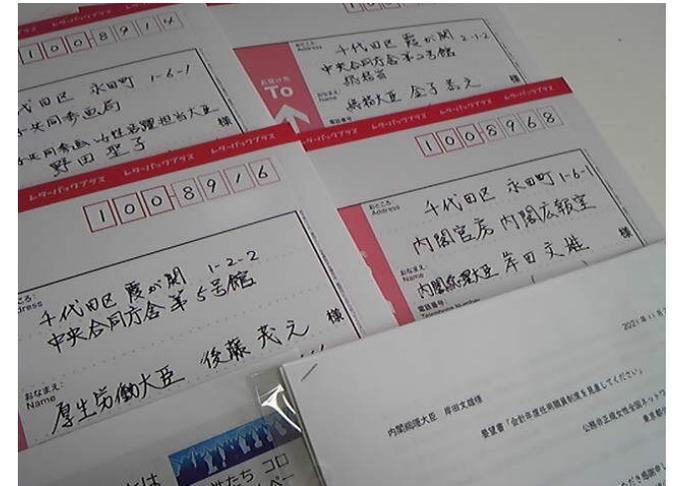


2-2.はむねっとの活動

<https://nrwwu.com/>

◆2021年

- 11/26 要望書「女性の非正規職問題の対象に、公務部門の非正規職も入れてください」を男女共同参画・女性活躍大臣に提出(2022/2/9メール回答:男女共同参画局)
- 12/8 要望書「令和3年度の職員の期末・勤勉手当に関する減額勧告について、会計年度任用職員を対象としないでください」を全国69人事委員会に提出
(2022/2/1までに、全ての人事委員会から文書回答)



◆2022年

- 3/20 はむねっつと発足1周年 ハイブリッド集会
あきらめずに声をあげよう！
公務非正規から問う。このままでよいはずがない私たちの社会
YouTube:<https://youtu.be/jSdbdY9HrtA>
- 3/28 非正規雇用職員セミナー 図書館で働く女性非正規雇用職員

3-1.公務非正規労働従事者への緊急アンケート(1次調査)



<https://nrwwu.com/survey-2/899/>

■調査の趣旨・目的

非正規で公務労働にかかわる当事者の生の声を、インターネットを通じて直接、かつ、広く集め、現状を明らかにすると同時に、社会に公務非正規に従事する人たちの現状を発信すること。

■実施団体 公務務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)

■調査方法 インターネット(グーグルフォーム)によるアンケート

※無記名、メールアドレスの収集設定なし、必須回答項目は最低限に設定。

※勤務地記入は必須とせず、公表は、地域区分までにする配慮等を記載した。

■実施期間 2021年4月 30 日(金)～6月4 日(金)

■対象 非正規で公務労働に従事している人

(2019 年 4 月から 2021 年 4 月の退職者を含む)

※性別を問わず広く回答を求めた。

※国・地方自治体及びその関係機関で働く非正規労働者を対象とした。

※大学等(国立大学法人、独立行政法人)の非正規教職員は対象外とした。

■有効回答数 1,252 件(回答数 1,305 件)

3-2.公務非正規労働従事者への緊急アンケート

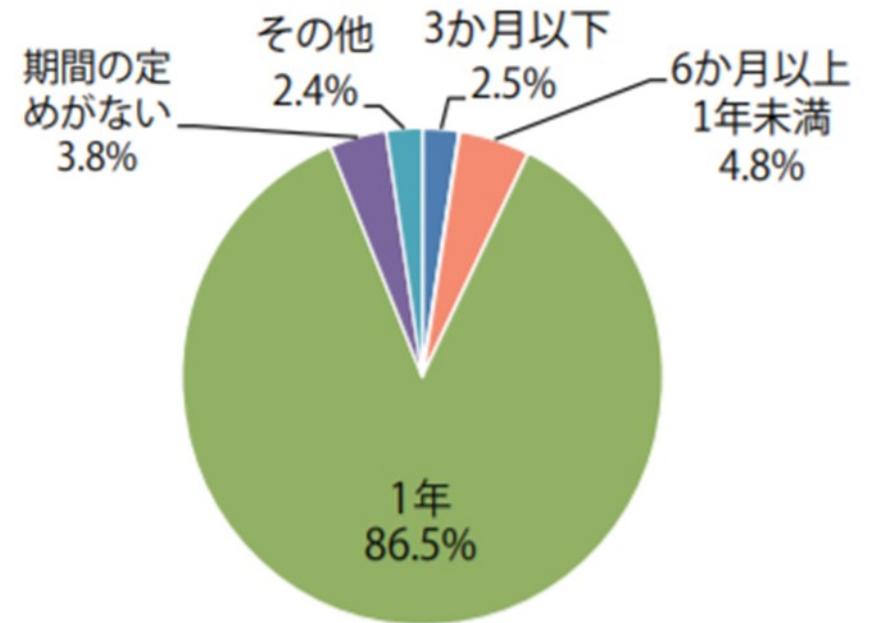
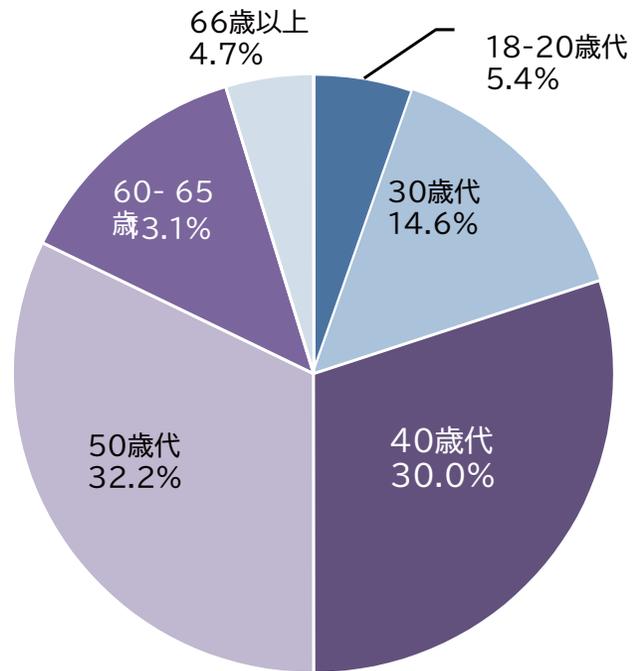


◆性別 92.7%が女性

◆雇用先 国6.9% 民間10.3% **地方自治体81.7%**

◆年代 40代までで50%

◆雇用契約期間 1年以下が93.8%

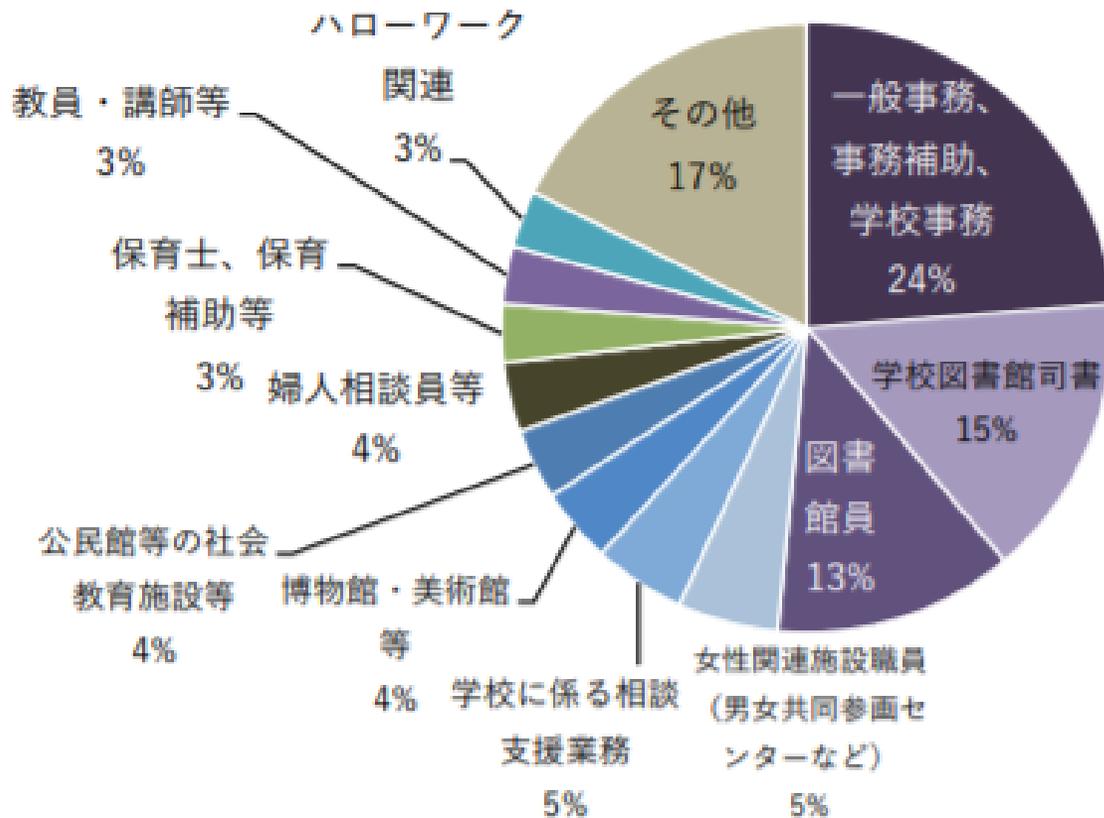


3-3.公務非正規労働従事者への緊急アンケート

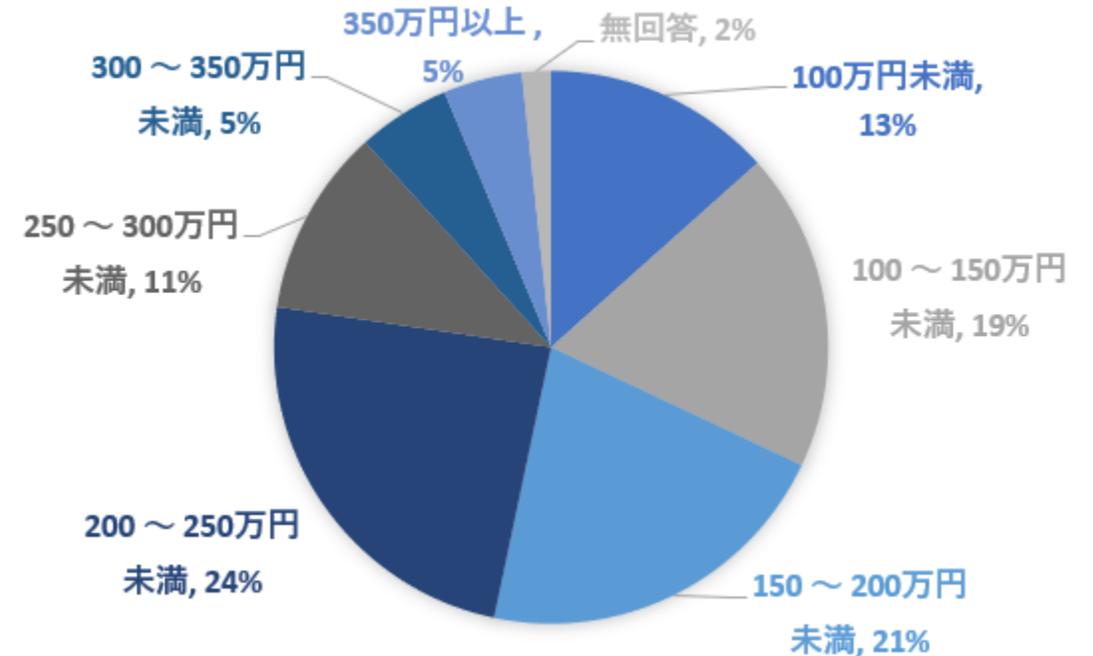


◆職種は役所の様々な分野

図書館勤務者は、27.8%



◆2020年の就労収入(非該当を除く1,240人)
 200万円未満が53.3% 250万円以下が77.3%
 3人に一人は主たる生計維持者



4-1.図書館職種の追加分析



■調査対象(会計年度任用職員)

1次調査職種分類の学校司書189人(15.1%)、図書館員159人(12.7%)から、学校図書館と公共図書館に勤務するものを抽出した。

そのうち、就業形態が、民間(7人、31人)、臨時職員、任期付き職員、有償ボランティア、非該当等(14人、8人)を対象から外し、分析した。

調査対象者内訳		学校図書館	公共図書館
会計年度任用職員	フルタイム (1週当たりの勤務時間38時間45分以上)	9人	8人
	パートタイム (1週当たりの勤務時間38時間45分未満)	159人	112人
合計		168人	120人

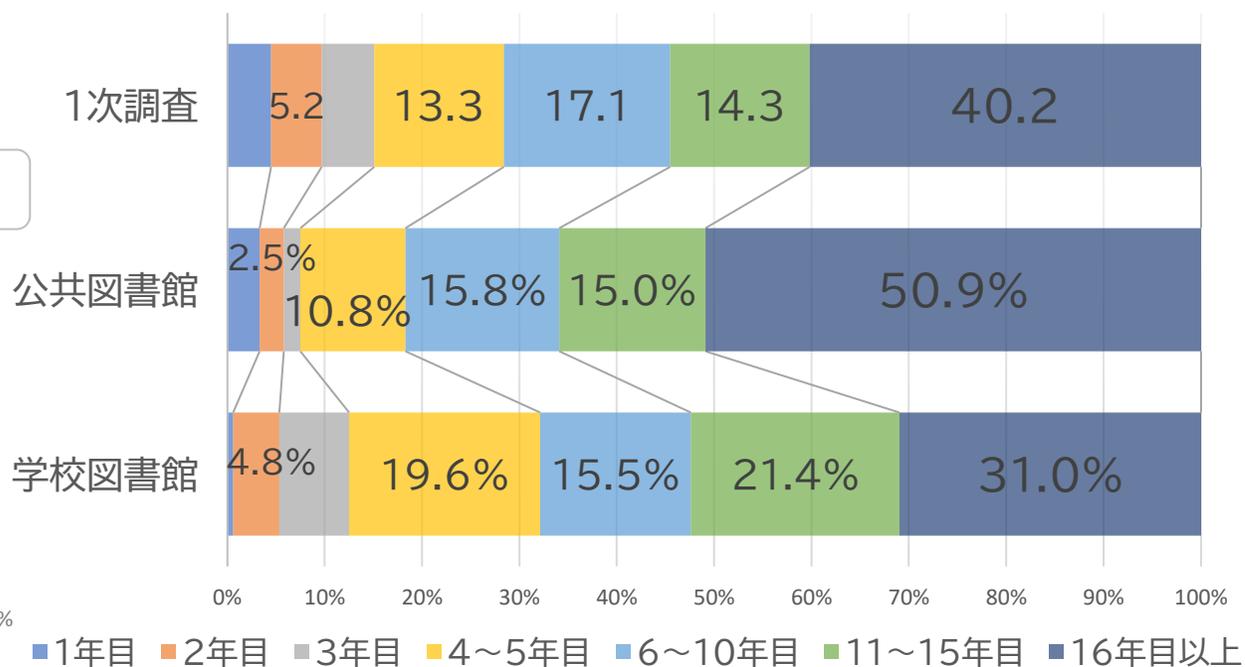
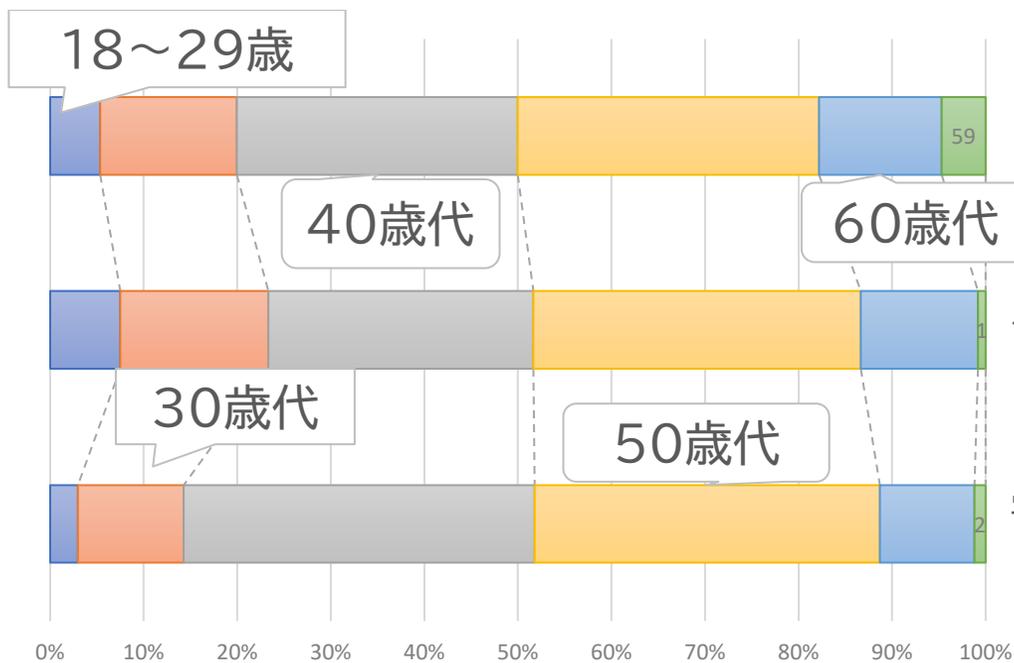
4-2.図書館職種の追加分析



◆性別 1次調査92.7%が女性に対し、学校図書館**98.8%**、公共図書館93.3%

◆年代 1次調査60歳以上17.8%、
学校図書館**11.3%**、公共図書館**13.3%**

◆通算勤務年数
公共図書館**16年以上が50.9%**
学校図書館4～5年目、11～15年目が高い

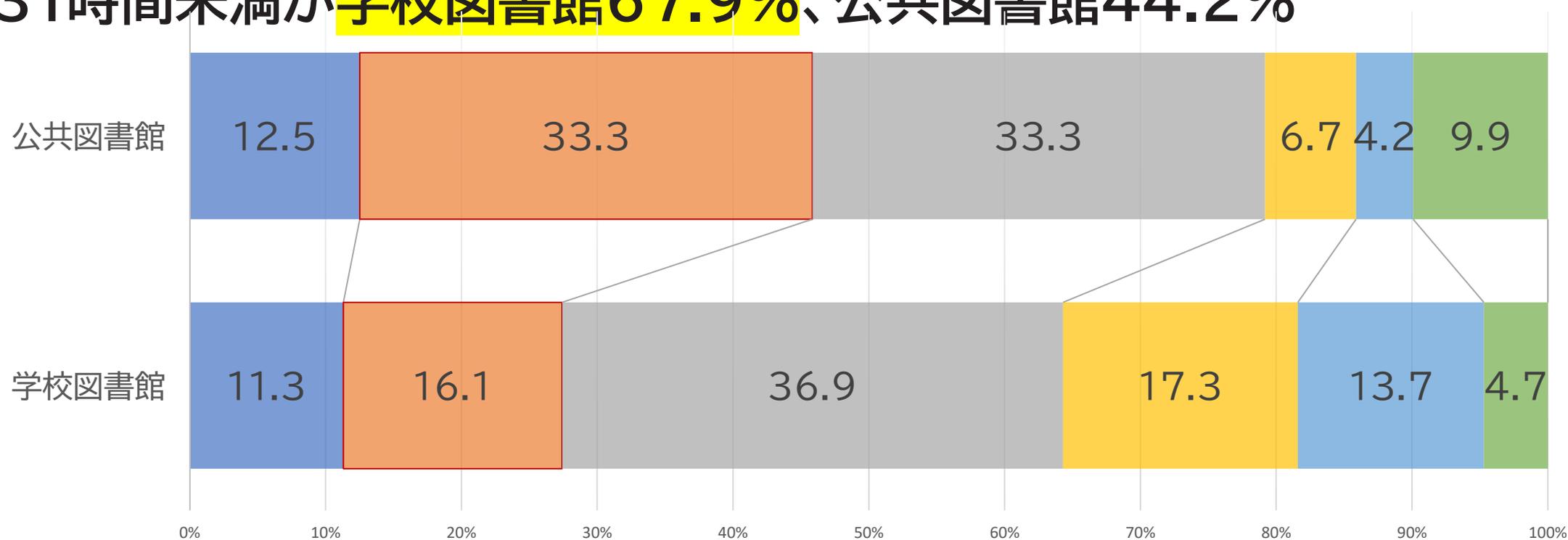


4-3.図書館の勤務時間数



31時間以上が、学校図書館27.4%、**公共図書館45.8%**

31時間未満が**学校図書館67.9%**、公共図書館44.2%



■ 37時間30分以上 ■ 31時間～37時間30分 ■ 23時間15分～31時間 ■ 19時間25分～23時間15分 ■ 19時間25分未満 ■ 不明

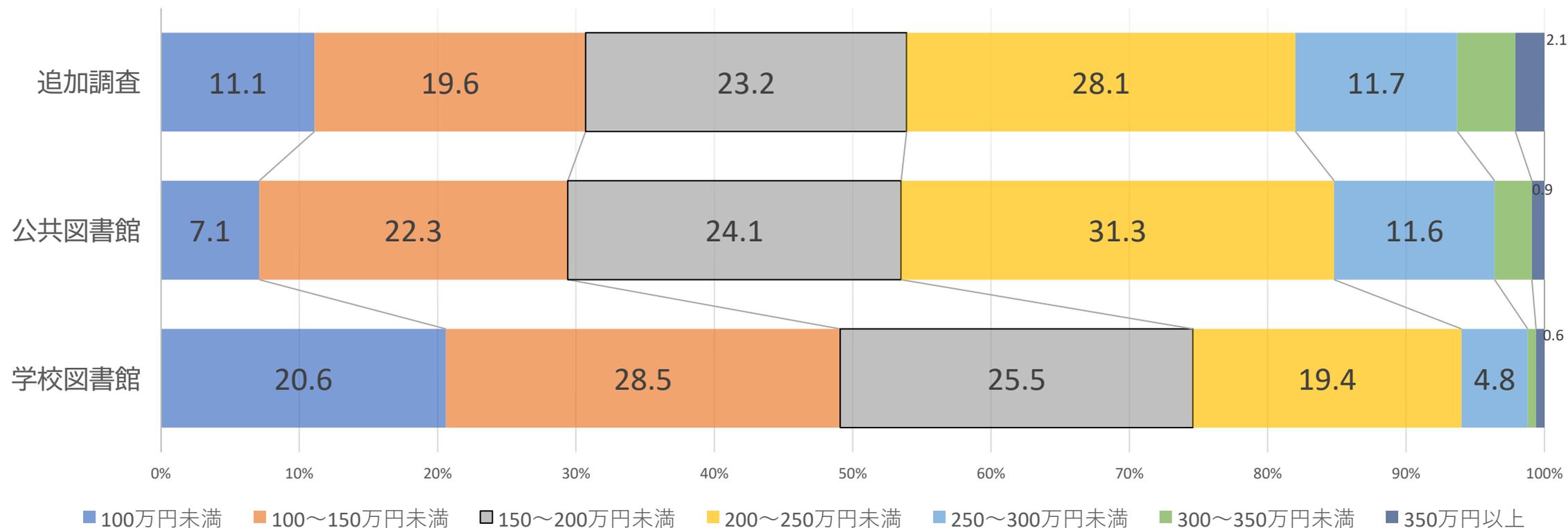
4-4. 2020年の就労収入(会計年度任用職員 女性のみ)



追加調査該当者:857人(女性総数1,161人の 73.8%)

年収200万円未満、追加調査53.9%、**学校図書館74.5%**、公共図書館53.6%

年収250万円未満、追加調査82.0%、**学校図書館93.9%**、公共図書館84.8%



出所 | 「公務非正規労働従事者への緊急アンケート調査結果と追加集計概要について」『生活経済政策』2021.9 No.296
<http://www.seikatsuken.or.jp/monthly/index.html>

4-5.図書館勤務者の体調と将来不安

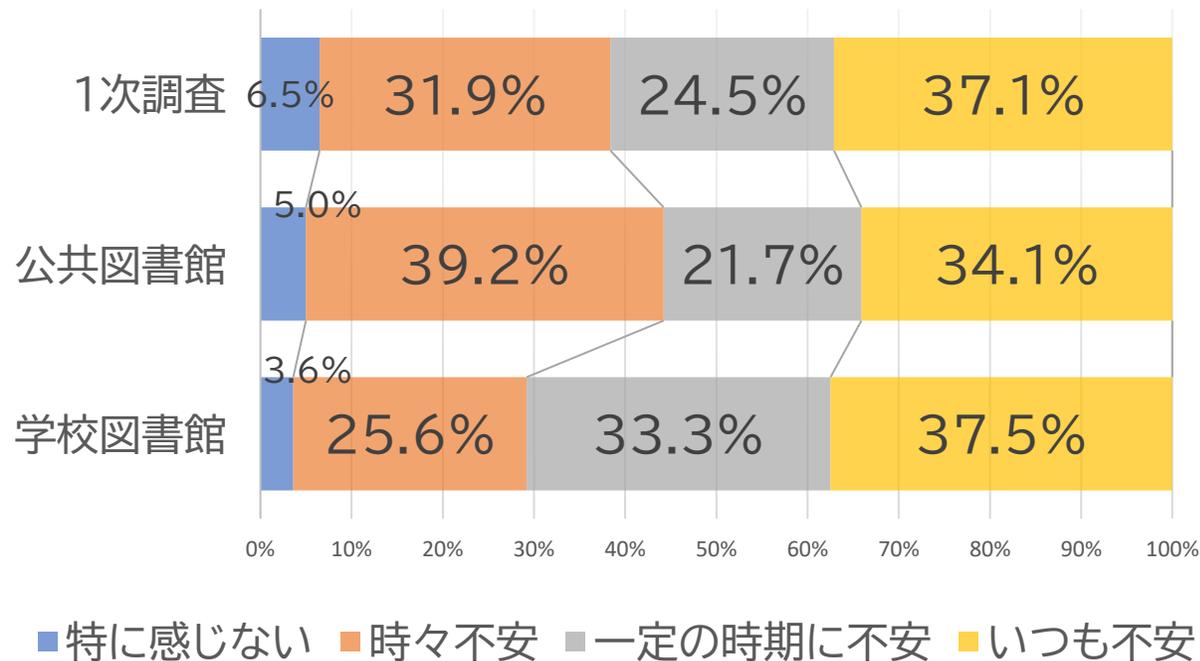


◆身体的不調

1次調査32.4%、**学校図書館29.8%**、公共図書館36.7%

◆メンタル不調

1次調査45.8%、**学校図書館42.3%**、公共図書館46.7%



◆将来不安 1次調査 93.5%
学校図書館96.4%
公共図書館95.0%

◆「一定の時期に不安」
学校図書館 33.3%
「長期休みは、無給」
「週5日勤務が、夏休みは月10日ほどになる」

4-6.不安や憤りを訴える声(自由記述より)



・7年働いて時給が10円しか上がりません。勤務時間内では到底終わらない業務のため、残業や家での持ち帰り仕事があります。また、自費で研修に参加したり、書籍を購入してスキルをあげたりしても、給与には全く反映されず、ただ貸し借りの作業をするのみだと思われるような時給が続きます。子どもの学びを深める支援ができて、教室とは違う、斜めの立場の大人として子どもに寄り添うことができる、やりがいのある仕事なので、それが自分のアイデンティティとなり働いていますが、夏期休業中等は勤務がなく、年収が100万を超えることはありません。親の介護が必要になったり、子どもの教育費が必要になったりすると、辞めざるを得ないのが現実です。経験を積んだ先輩方が毎年お辞めになっていきます。フルタイムで働けて、月給制で保障されていれば、もっと学校の子どもたちや担任の支援も学校図書館の整備も進むのに、自治体はGIGAスクールの方にはばかり力を入れているので、先に明るい要素はあまり見当たりません。本の先生になりたい！と言ってくれる児童に、素敵な仕事だよ、と言えるくらいの待遇を希望します。6年生に年収いくらか聞かれて答えたら「それじゃあ、生計が立てられないじゃん！」と言われました。(学校司書 6~10年勤務)

・昇給にも限度があり、一番多くてもおそらく大卒初任給を越えることはないのだと思うとふつつつと怒りがわいてきます。何年働いても、どれだけ貢献しても私たちは新人以下かい、と。20年以上「非正規」として働いてきてどこかがすっかり歪んでしまっていると感じます。将来的にも長生きしてしまうことに対して不安しかない。もうくたびれました。(司書 16年以上)

・行政サービスの質を支える専門的知識・技術を軽視しすぎ。常勤が管理業務に特化され今では現場に必要な専門性は長期に勤務する非常勤によって蓄積・継承されています。にもかかわらず「非常勤がやる仕事は補助的で簡単な業務」という建前はそのまま。している仕事の内容と賃金が割に合わないと感じます。また、これまで昇給はないもののほぼ自動的に更新されてきた雇用が「機会の均等」と称しつつでも解雇できるようになった今の制度には失望しかありません。理不尽すぎます。「女性活躍推進」という言葉が、女性管理職や女性議員の増加という方向に行くのも違和感があります。その前に女性が多く従事している職種の価値を認め、待遇を相応に上げてほしい。(司書 16年以上)

5.まとめ



- 「公務の民間化」により非正規司書の雇用先は多様化している。
- 非正規司書が、不安定な雇用条件のもとで、恒常的に必要な職、専門性の高い職を担っている。
- 職務や経験が考慮されず、格差のもとでハラスメントが起きやすい状況がある。
- 安心して相談できる場や、労働条件の改善を訴える手段も限定され、心身に不調を抱える人や、将来展望の持てなさに不安を抱える非正規司書が多数を占める。
- 経験を積んだ非正規司書だからこそ、司書職の持続可能性には、大きな不安を感じている。
- 非正規司書の待遇を改善しなければ、図書館サービスの受け手にも不利益となる。
- 非正規司書は、公共サービスの受け手でもあり、地域の一住民でもある。

図書館には、「司書」としての常勤職員(正規職員)を配置するべきです。配置にあたっては、経験と能力のある会計年度任用職員等を積極的に登用することと、その制度化が求められるところです。「JLA 会計年度任用職員に関する提言」